

Nagoya High School

2-1-58 Sunada-bashi, Higashi-ku, Nagoya, 461-8676 JAPAN
TEL +81-52-721-5271 FAX +81-52-721-5277

クリスマスメッセージ

学院長 横山 良樹



**神はその独り子をお与えになったほどに世を愛された。
独り子を信じる者が一人も滅びないで永遠の命を得るため
である。**

(ヨハネによる福音書3章16節)



待降節を迎えました。皆様の上に、主のご降誕の恵みと祝福が豊かに注がれますように祈ります。
今年7月、学内キリスト教研修会が行われました。そのなかで20年後にどんな卒業生になってほしくないかを分かち合う時間がありました。複数回答は「犯罪者」。直接すぎて笑ってしまいましたが、「母校を恥じる学生」という答えには、そんな学校にはいけないという教職員の自戒が込められていたように思います。

わたしはこれに「冷笑的な人間」と答えました。世の中や人生に失望あるいは絶望してシニカルに、否定的に、人や物事に関わる人間になって欲しくないと思ったのです。

聖書に登場する「冷笑的な人間」代表はアブラハムの妻サラです。子孫繁栄と土地取得の約束を与えられて旅立った夫妻は子どもに恵まれず、すでに高齢でした。生存のために数が必要とされた時代、多産は祝福であり、子どもを産めなかったサラは辛い人生を歩んでいました。ところが神の使いがアブラハムを訪れ、来年の今ごろサラは男の子を産むと告げるのです。給仕をしながら天幕の陰でそれを聞いたサラは嗤います。そんな馬鹿な、と冷笑的に嘲ったのです。それを神の使いに見咎められて「笑った」「笑わない」の押し問答がなされます。しかし本当にサラは男の子を産み、神は私を笑わせてくださったと感謝し、その子を「イサク」（笑う）と名付けます。神は生きておられ、わたしを顧みて下さった！その驚きと喜びが命名の背後にあります。

この出会いがわたしたちにも欲しいのです。冒頭にかかげた聖句は神がその独り子をお与えになったほどに世を愛されたこと、わたしたちが神の目に価値高いことを告げます。クリスマスの出来事、飼い葉桶におかれた神の御子は、人間の歩みに心を寄せて低きに降る神の姿をあらわします。あなたのために神は人となられた。冷笑や虚無から人間を救うのはこの神の熱情です。インマヌエル（神、我らと共にいます）の御言葉が実現し、「永遠の命」への道が開けます。それは死なないことではありません。わたしたちは一人（one）になることがあるでしょう。しかし独りぼっち（alone）になることはありません。神の独り子が飼い葉桶に生まれ、十字架に終わる生涯を歩んで下さった以上、神の愛と導きがわたしから離れ去ることはないのです。主イエスと出会う者は冷笑からも絶望からも救われます。この方との出会いこそがクリスマスの喜び、名古屋学院キリスト教教育の願いです。